

## 埼玉親善大使レポート

## ● 埼玉県を PR した事例

埼玉県のみならずフォーカスして PR した事例はありませんが、留学中複数回にわたって様々な機会に埼玉県を含み日本の PR をしました。そのなかでも主となるものは、大学で行われた International Festival という文化交流のイベントに展示者として参加したことです。埼玉大学からの留学生・日系二世の学生・現地学生と協力して週に 1～3 回のミーティングをして出し物について話し合い、イベントに参加しました。イベントでは、日本の都市や若者言葉についての説明をボードやクイズを活用して行い、また体験型で着物を見せたり、毛筆で名前を書いてプレゼントしたりもしました。現地学生やアジアからの留学生が参加するイベントで、多くの人に足を止めてもらい、交流ができたと感じます。



また、セメスターに 1 回、埼玉大学からの学生と共に、近くの短期大学で開講されている日本語の授業を訪問しました。訪問だけにとどまらず、現地で日本語を教えている先生と連携して週に 1 回、大学のカフェテリアでフリートークをするためのテーブルを開き、授業外での交流も深めました。このような交流の結果がすべてではなく、学生たちの思いの変化もあると思いますが、この後に一緒に交流していた学生のうち 2 人が埼玉大学への交換留学を決意し、この春からの学生がすでに日本におり、また秋から 1 年間留学する予定の学生とも日本で再会する約束をしてアメリカを離れました。

日本という広い範囲での PR を留学中に行ってきましたが、このようなことがきっかけとなって日本や埼玉大学を訪れてくれる人が増え、埼玉県の国際化にも寄与できることを祈っています。

## ● 現地での生活や現地の様子について

私はアメリカにあるイリノイ大学スプリングフィールド校という、とうもろこし畑の広がるのどかな場所で留学生活を送りました。1 年を通して乾燥して少し寒い北海道くらいの気候で、冬はかなり冷え込みますが比較的過ごしやすい土地でした。私の過ごしたスプリングフィールドは、シカゴを抱えるイリノイ州の州都で、アブラハム・リンカーンが生まれ育った地です。街中のところどころにリンカーンの名前や銅像があり、その当時を思わせるような歴史を感じる都市でした。そこに住む人たちは、ホワイト系の人やキリスト教の人が大多数を占めるのですが、大学は留学生を積極的に

受け入れているため、多様性に富んだ環境で留学生活を送りました。特にコンピューターサイエンスを学びに来たアジアからの留学生が多く、常に南アジアや韓国からの学生との交流が絶えません。その中で、アジアの国民性として、そして同じ地域で生まれた者同士として、他の友だちがいつも自分のことを気にかけてくれたため、アットホームで過ごしやすい大学であると強く感じました。また、コンピューターサイエンスを学びに来ている学生が多いため、世界トップのIT企業に就職が決まっている学生や卒業生、それらにインターンシップに行った学生も多く、そのような人たちと共に過ごすことができ、日本にはない環境に身を置くことができたように感じます。



- 自身の活動について

私は、学業と私生活の両方について目標立てをして日本を飛び立ちました。学業における目標は、日本では学ぶことのできないことを学ぶこと、私生活における目標は、アメリカ人になることでした。

学業面についてですが、英語を学ぶことや国際交流をすることは日本でもできると感じ、日本でできないことをしようと決意しました。現地では、Entrepreneurship や Negotiation など、埼玉大学で開講されていない科目や日本よりも研究の進んでいる分野を多く学びました。さらにそれぞれの科目でしっかり自分の意見を発言し周りの学生と積極的にディスカッションすることを決め、上記の分野以外でも日本とどのように考え方が異なるのかについて、意見交換を行いました。

私生活では、アメリカ人になることを目標としたと上述しましたが、もちろん1年間の交換留学でアメリカ国籍を取ろうなどと考えたわけではありません。私は、アメリカにいる間は、アメリカで生まれた赤ちゃんのようにアメリカのことを吸収しようと考えていました。アメリカ人がやっていることを見て、それを当たり前のように自分が実践し、アメリカの人のように振る舞ってみようと考えて行動していました。その結果、友だちとも初対面の人とも言語や国籍の壁を超えてコミュニケーションすることができ、楽しい海外生活にできたと感じています。一方で日本人としての自分のアイデンティティや苦手は捨てずに表現することも行い、この両輪のおかげで、カルチャーショックなどで悩むこともなく過ごせたと思っています。

そのほかにも、プライベートでは趣味であるオーケストラを楽しむために観光したり、念願のディズニーに行ったり、またアメリカの友達に勧められた国立公園にも行ったりと、学業と私生活共に、充実した毎日を送ることができました。

最後に、本奨学金や周りの方々のおかげで多くの貴重な経験を積めたことに感謝し、アメリカでの学びをこれから還元できるよう努力します。ありがとうございました。